

「家がいいね」 第111号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2013. 8. 7

「ころ」(がそこに) ない言葉

お盆も近く、立秋です。残暑お見舞い申し上げます。埼玉医大には、がんで身内を亡くして精神的な症状に苦しむ人のため遺族外来があります。「もっと看病できたのでは」との後悔を語る一方で、「**周囲の言葉や態度に傷ついた**」と漏らす人が多く遺族630人に聴き取り調査がなされました。6割の人が、興味本位の詮索ともとれる「**一緒に住んでいてなぜ(がん)に気付かなかったの?」**や「**がん家系なの?」「健診は受けなかったの?」**などの言葉を投げかけられ傷つきました。4割の人は「**これで自由になったね」「看病から解放されたじゃない**」と死別への良い面の押しつけをされた心境でした。また5割の人が、悲しみを隠して振舞っているのに「**意外に元気ですね**」と気付いてもくれない言葉をもらった経験がありました。逆に助けになったのは、事情を良く知る人が言葉少なに寄り添ってくれる態度や働きかけで、8割の人が経験していました。大切な人を失った哀しみは、年忌など世間の時間で測って癒されるものでもないと思われれます。「早くー」は不粋です。**私たちの在宅ケアは看取りで終わることはありません。身内を悼む気持ちを受け止めつつ皆さんの言葉に心を添える働きを続けようと思います。**

夏期の休診のお願いです

8月13日(火) 8月15日(木) お盆休みです。

8月24日(土)は、臨時休診します

「終わりよければ」いせの会

認知症・市民公開講座

田辺鶴瑛さん(講師)

「ほっとけ心のアップレ介護」



午後1時半〜4時 講演

会場 ハートプラザみそのホール

事前申し込み不要 入場無料

認知症の義父の在宅看取り画像も当日ご覧下さい

お白石持ちと救急車

熱中症を心配しながら、8月2日、内宮へ。2個の白石を新敷地へ無事に納め、見上げる社殿の白木が光り輝く光景と木の香に感無量でした。20年この石は必ずここに在るのだと心に刻みました。やれやれ無事にとバス停まで戻ると、倒れたり嘔吐したりのだ員がいま。熱中症と予測のつく症状なので、救護本部のスタッフと共にケアをして、これで大丈夫と思ったら救急車がやってきました。えっ、何で?

間くと同行者が勝手に携帯で連絡していました。本人に「**救急搬送辞退届**」を書いてもらう結果になりました。現実の手当てより、便利な丸投げに対処が傾いてしまう現代の歪みを、目の前で見せつけられた一件です。

お客を勝手にさせているお店、いいね!

腎不全の在宅患者さんのために、病院の栄養士さんと薬剤師さんに初めて訪問をお願いしました。それも感激ですが、介護の奥さんの一言に嬉しくなりました。「客が勝手にやるのがこの店の流儀」私の故郷の居酒屋を思い出しました。自分の家のように皆がビールや配膳を出して片づけもする。老女将は、姉さん?母さん?婆さん役で自分も楽しみながら会話に加わる。会計も驚くほど安い。お盆に帰ると徹夜踊りをしながら入り浸りでした。



いせ在宅医療クリニック
Ise home care clinic
自宅での人生を 最期まで支援します
〒516-0805
三重県伊勢市御園町高向 927
電話 0596-20-8104
ファクス 0596-20-8105
メール homecare@kr.tcp-ip.or.jp
ホームページ http://isezaitaku.com